



## Ⅱ 通級による指導で活用するアセスメントと支援

### 2 アセスメント ～生徒の特徴を知り、指導の工夫につなげる～

適切な指導・支援を実施するために、以下の二つのアセスメントを行います。

#### A 「学校で見られる行動のチェックリスト」

#### B 「読み書き達成テスト」

#### A…学校で見られる行動のチェックリスト

##### 【課題】

- ①注意行動
- ②社会的行動

詳細→ P.22～25



通級による指導で活用する「学校で見られる行動のチェックリスト」では、学習場面や生活場面で見られる行動をより詳細に評価し、個に応じた支援につなげます。注意を維持することの弱さを①「注意行動」で、対人関係の弱さを②「社会的行動」で評価します。これらの項目に弱さがある場合には、P.22～25に示した「支援の提案」を参考にし、個別指導や小集団指導を行う際に配慮することが大切です。

#### B…読み書き達成テスト

##### 【課題】

- ①文章読解テスト
- ②削除・一般化・構成テスト
- ③図表の読み取りテスト
- ④図表の削除・一般化・構成テスト
- ⑤情報の活用テスト
- ⑥平仮名の流ちょうな読みテストA
- ⑦平仮名の流ちょうな読みテストB
- ⑧漢字の読み書きテスト
- ⑨部首部品テスト
- ⑩聴覚記憶テスト
- ⑪視覚スキルテスト
- ⑫ローマ字の書きテスト
- ⑬英単語つづりテスト
- ⑭英語視覚性語彙テスト
- ⑮英語正書法知識テスト

詳細→ P.26～36



通級による指導で活用する「読み書き達成テスト」では、読み書きのつまずきの原因を更に詳しく評価し、適切な指導につなげます。「情報の読み取りの弱さ」を①～⑤の項目で、「特定の学習の習得に関係した弱さ」を⑥～⑮の項目で評価します。中学校版では英語の読み書きに関するスキルを評価するアセスメントを取り入れています。日本語の読み書きとは異なる、発音とつづりのルールの習得状況についても確認することができます。

## A 学校で見られる行動のチェックリスト／チェックリスト(コピー用)

### 学校で見られる行動のチェックリスト

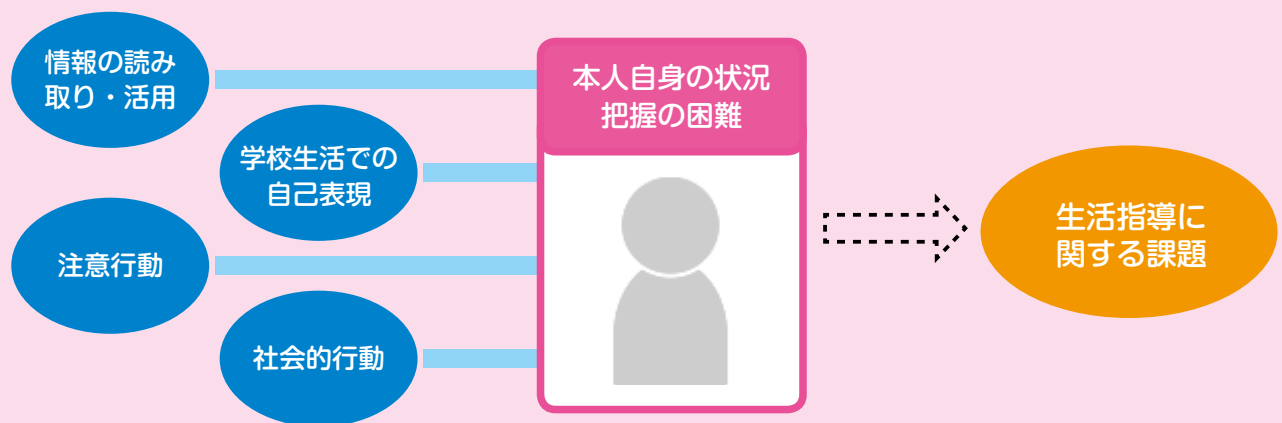
— 通級による指導 —

生徒名 [                      ] 記入者 [                      ] 記入日 (      年      月      日 )

注意行動		該当しない	あまり 該当しない	少し 該当する	該当する
①学習における注意	注意を維持し、一つの課題に長時間取り組むことができる。	1	2	3	4
	特定の物事に注意を向けることができる。	1	2	3	4
②生活場面での注意	学習で使用する用具を忘れずに持ってきたり、管理したりすることができる。	1	2	3	4
	整理整頓することができる。	1	2	3	4
社会的行動					
③周囲との交渉	相手の立場に立ち、感情を理解することができる。	1	2	3	4
	周囲と協力することができる。	1	2	3	4
④ルール理解	一般的な決まりやルールに従うことができる。	1	2	3	4
	暗黙のルールを理解することができる。	1	2	3	4

\* 1、2、3、4は、それぞれの項目に該当する行動の程度を表します。

通常の学級用と通級による指導用の「学校で見られる行動のチェックリスト」の各項目を評価することにより、生徒が自分自身の状況を把握することに関する困難さが明らかになります。このことにより、生徒の生活指導に関して予防的な指導も含め、重点的に取り組むべき課題を把握しやすくなります。



## Ⅱ 通級による指導で活用するアセスメントと支援

### A：学校で見られる行動のチェックリスト／課題① 注意行動(学習における注意)

#### 学校で見られる課題

不注意のために、授業中、大切な話を聞き逃してしまう



課題と関係のない行動をするために、集中して課題に取り組むことが苦手である

#### 行動の特徴

- 授業中、指示された課題に取り組めない。(不注意)
- 課題を途中でやめてしまうことがある。(衝動性・多動性)
- 課題に関する指示について、最後まで聞いていないことがある。(衝動性・多動性)

#### 状況の把握

行動のチェックリストの「注意を維持し、一つの課題に長時間取り組むことができる。」「特定の物事に注意を向けることができる。」の項目で把握します。

#### 支援の考え方

##### 【支援の手掛かり】

生徒の自己効力感を大切にします。始めに生徒と話し合ってから、目標を決めてから、時間や課題の量など、達成可能な目標を設定します。また、目標を達成する上での工夫(視覚的手掛かりや言葉掛け)を話し合います。

※自己効力感とは、「自分ならできる」という自信や自分への期待のことです。

##### 【支援の工夫】

不注意

- ・ 話す内容などを、図やカードで示し、見通しをもたせる。
- ・ 残りの時間が分かるようにする。

衝動性・多動性

- ・ 集中する時間など、達成可能な目標を決める。
- ・ 目標を達成できたときには、積極的に褒める。

## A：学校で見られる行動のチェックリスト／課題② 注意行動(生活場面での注意)

### 学校で見られる課題

忘れ物や、持ち物の  
紛失が多い

整理整頓が苦手



### 行動の特徴

- 忘れ物が多く、学習に支障がでる。(注意やチェックの弱さ)
- 前の日に確認しても、忘れ物が減らない。(注意やチェックの弱さ)
- 整理が上手くできず、道具を出すのを手伝う必要がある。(予定を変更することの弱さ)

### 状況の把握

行動のチェックリストの「学習で使用する用具を忘れずに持ってきたり、管理したりすることができる。」「整理整頓することができる。」の項目で把握します。

### 支援の考え方

#### 【支援の手掛かり】

忘れ物が多い生徒や整理整頓が苦手な生徒には、「注意やチェックの弱さ」や「予定を変更することの弱さ」があります。これらの弱さに対処します。

#### 【支援の工夫】

注意やチェックの弱さ

- ・家の人の協力を得て、朝、家を出るときに、確認表にチェックするように促す。
- ・忘れ物がない日には、確認表にシールや確認印等で評価する。

予定を変更することの弱さ

- ・持ち物を置くべき場所をテープなどで区画し、準備しやすくする。
- ・予定に合わせて準備できたときには、確認表に評価の印をつける。

## Ⅱ 通級による指導で活用するアセスメントと支援

### A：学校で見られる行動／課題③ 社会的行動(周囲との交渉の弱さ)

#### 学校で見られる課題

相手が嫌がっていることを理解している様子が見られない



グループ学習などで、協力して活動に取り組めない

#### 行動の特徴

- 人の嫌がることを言ってしまう。(相手の気持ちの理解の弱さ)
- グループの中で役割をもち、協力して活動することが苦手である。(協力して活動することの苦手さ)

#### 状況の把握

行動のチェックリストの「相手の立場に立ち、感情を理解することができる。」「周囲と協力することができる。」の項目で把握します。

#### 支援の考え方

##### 【支援の手掛かり】

周囲との交渉に弱さを示す生徒には、「相手の気持ちの理解の弱さ」がある場合や、「協力して活動することの苦手さ」がある場合があります。自分の苦手さに気付いているかどうかを生徒に聞きます。

自覚している場合には、苦手さを補う方法をアドバイスします。自覚していない場合には、うまくいっていない部分を指摘し、解決する方法をアドバイスします。

##### 【支援の工夫】

相手の気持ちの理解の弱さ

- ・ 相手の気持ちは、発言の内容や表情・態度に表れていることをアドバイスする。
- ・ 相手の気持ちは、「どのような場か」、「どのような状況か」を考えると分かることをアドバイスする。

協力して活動することの苦手さ

- ・ グループ学習で、達成目標をステップに分けて、ステップごとの目標を到達した場合には、対象生徒を含むグループ全体を褒める。

## A：学校で見られる行動／課題④ 社会的行動(ルール理解の弱さ)

### 学校で見られる課題

こだわりが強いので、予定の変更があると、気持ちを切り替えて、対処できない



教室や集団行動で、みんなが理解している暗黙のルールが分からない

### 行動の特徴

- こだわりが強いので、予定の変更があると、気持ちを切り替えて対処できない。(強いこだわりと気持ちの切り替えの弱さ)
- 教室の中でのルールなど、一般的なルールを理解できない。(ルール理解の苦手さ)

### 状況の把握

行動のチェックリストの「一般的な決まりやルールに従うことができる。」「暗黙のルールを理解することができる。」の項目で把握します。

### 支援の考え方

#### 【支援の手掛かり】

生徒には、「強いこだわりと気持ちの切り替えの弱さ」を示す者や、「ルール理解の苦手さ」を示す者が見られます。落ち着いているときに、ルールについて説明したり、気持ちの切り替え方について、あらかじめ、アドバイスをすると受け入れやすくなります。

#### 【支援の工夫】

強いこだわりと気持ちの切り替えの弱さ

・ あらかじめ、気持ちを切り替える方法について話し合っておく。必要に応じて、その方法を提案したり言葉掛けしたりする。

ルール理解の苦手さ

・ あらかじめ理解が難しいルールについて、その内容と必要性を言葉で説明する。必要な場面で言葉を掛け、理解を促す。

## Ⅱ 通級による指導で活用するアセスメントと支援

B：読み書き達成テスト／課題① 文章読解テスト▶▶▶P.12で解説(通常の学級での支援と同じ)

B：読み書き達成テスト／課題② 削除・一般化・構成テスト

### 行動の特徴

- 長い文章の要点を把握することが苦手である。
- 文章で、大切なところと大切でないところの違いを区別することが苦手である。
- うまく文をまとめることが苦手である。

### アセスメント方法

「削除・一般化・構成テスト」では、単段落の文章で、代表的なマクロルール(P.13、コラム1)である、削除ルール、一般化ルール、構成ルールの理解を評価します。

第三問 構成テスト

短い文章を読み、三つの文章の内容を全てまとめて表しているものを1〜3の中から一つ選び、記号に○をつけましょう。

第三問 (1)

父は、駅に行った。  
父は、東京行ききっぷを買った。  
そして、父は、十時十分発に乗っていった。

1 父は、駅に行き、きっぷを買った。  
2 父は、電車に乗って、東京へ行った。  
3 父は、お弁当を買った。

第二問 一般化テスト

短い文章を読み、三つの文章の内容をいればん適切に表しているものを1〜3の中から一つ選び、記号に○をつけましょう。

第二問 (1)

花子はおもちゃで遊んだ。  
花子はおもちゃで遊んだ。  
花子は次に人形で遊んだ。  
花子はその後、おままごとセットを出して、遊んだ。  
1 花子はおもちゃで遊んで、次に人形で遊んだ。  
2 花子はおもちゃで遊んで、次に人形で遊んだ。  
3 花子はおもちゃで遊んで、次に人形で遊んだ。

第一問 削除テスト

短い文章を読み、一番重要ではない文を選んで、□にチェック(✓)をつけましょう。

第一問 (1)

□ ぼくは友達太郎とボール遊びをしていた。  
□ ボールは、黄色だった。  
□ ボール遊びはとても楽しかった。

### 【支援が必要な理由】

単段落の文章について、マクロルール(P.13、コラム1)の理解が難しい生徒の事例で、長文の読解が苦手である可能性が高いことが報告されています。このことは、単段落の文章での指導が、長文読解に必要であるためです。

### 【支援の工夫】

単段落の文章を用いて、削除ルール、一般化ルール、構成ルールの理解を促す指導プリントにより、読解支援を行います。指導例は、通級による指導での指導方法(P.37 読解の支援①)で述べられています。

### 支援の考え方



B：読み書き達成テスト／課題③ 図表の読み取りテスト▶▶▶P.14で解説(通常の学級での支援と同じ)

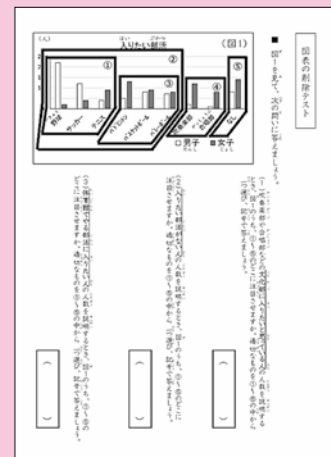
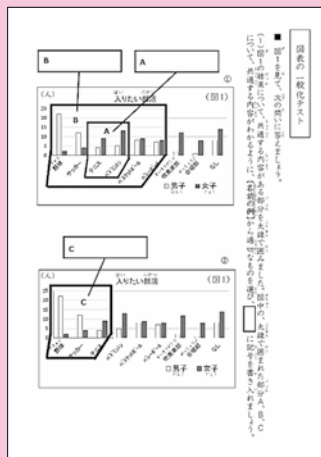
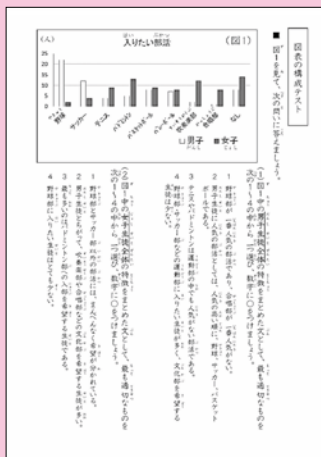
B：読み書き達成テスト／課題④ 図表の削除・一般化・構成テスト

### 行動の特徴

- 図表に示された情報の要点を把握することが苦手である。
- 図表の情報で、大切なところと大切でないところの違いを区別することが苦手である。
- 図表の情報をまとめることが苦手である。

### アセスメント方法

「図表の削除・一般化・構成テスト」では、図表に示された情報の読み取り問題で、削除ルール、一般化ルール、構成ルールの理解を評価します。



### 支援の考え方

#### 【支援が必要な理由】

図表の情報について、マクロルール(P.13、コラム1)の理解が難しい生徒の事例で、図表の情報の、要点を把握することが苦手である可能性が高いことを指摘できます。このことはマクロルールの理解が、図表の情報の要点把握に必要であるためです。

#### 【支援の工夫】

図表の情報を用いて、削除ルール、一般化ルール、構成ルールの理解を促す指導プリントにより、図表に表された情報の理解を支援します。指導例は、通級による指導での指導方法(P.38 読解の支援②)で述べています。



## B：読み書き達成テスト／課題⑥ 平仮名流ちょうな読みテストA

### 行動の特徴

- 音読に時間が掛かり、読むことに対して消極的である。
- 文末を正確に読まないことがある。
- 一文字ずつ読むことがある。

### アセスメント方法

「平仮名の流ちょうな読みテストA」とは、無意味な平仮名文字列の中から1分以内に、できるだけ多くの「意味のある単語」を探す課題です。正しく探すことができた単語数を得点とします。

ら る く ま に ね こ た や へ く る ま わ  
す と う ふ の ほ い ぬ そ く け み み は  
ひ つ き ゆ ぬ ち な す お ろ た こ ひ よ  
き つ ね あ こ め る き ろ い る か ふ と  
れ か よ す し う い は さ み ゆ い か え  
ち な も ち き ほ め り す け く り よ も  
ろ ゆ き さ せ く つ て ゆ し お へ な そ  
つ く え て か つ お せ く や と ら の も  
あ ろ て か に ほ え も も せ ら は と に  
よ す あ り の い も た の ひ あ ひ る け  
れ か る た ゆ つ に た ぬ き お わ あ め  
へ ね と け い さ う め ろ そ ち せ み ぬ  
る の り お め き い す へ ね う み い ふ  
き の こ は に ら ゆ そ く る み ま う わ

### 支援の考え方

#### 【支援が必要な理由】

中学生でも、平仮名の音読が苦手な生徒がいます。小学生のときから続いている困難ですので、生徒本人にとって、平仮名の音読に対する苦手意識は強くなっていることが考えられます。

#### 【支援の工夫】

文章中に出てくる単語を、流ちょうに読めるように練習することにより、文章の音読は改善します。平仮名の単語検索課題や単語完成課題をプリントで指導する支援が効果的です。文章の音読を必要としないので、実施が容易です。また、通級による指導での指導方法（P.39 平仮名・漢字の流ちょうな読みの支援①）が効果的です。平仮名单語の音読が改善すると、その単語を含む文章の音読の流ちょうさが改善します。

## Ⅱ 通級による指導で活用するアセスメントと支援

### B：読み書き達成テスト／課題⑦ 平仮名の流ちょうな読みテストB

#### 行動の特徴

- 音読に時間が掛かり、読むことに対して消極的である。
- 文末を正確に読まないことがある。
- 適当に読む。

#### アセスメント方法

「平仮名の流ちょうな読みテストB」では、30秒間の制限時間で、有意味単語をできるだけ多く見付けます。4文字の平仮名单語について評価し、正しく見付けた単語数を得点とします。

⑥ かめぼこ かまぼこ	⑤ えんぼつ えんびつ	④ ひまわり ひまをり	③ にんじん にんじん	② たんぼぼ たんぼぼ	① たまねぎ たまねぎ
⑫ にわとり にはどり	⑪ はなたち はなかち	⑩ ねくたい ねくたい	⑨ あさがお あさがお	⑧ しいたけ しいたけ	⑦ やきいも やきいも
⑬ そろばん そろばん	⑭ なわとび なわとび	⑮ どんぐり どんぐり	⑯ くつした くつした	⑰ たいよう たいよう	⑱ だいきん だいきん

おわったら、ページをめくり次のものを読みすすみます。

#### 支援の考え方

##### 【支援が必要な理由】

4文字の平仮名单語の読みに困難があると、長文の流ちょうな読みに大きな困難が生じます。

##### 【支援の工夫】

平仮名の流ちょうな読み困難の程度との関連で、指導課題が決まります。平仮名の単語検索課題や単語完成課題を指導する支援は、効果的です。文章の音読を必要としないので、実施が容易です。指導例は、通級による指導での指導方法（P.40 平仮名の流ちょうな読みの支援②）を参考にしてください。

B：読み書き達成テスト／課題⑧ 漢字読み書きテスト▶▶▶ P.15で解説(通常学級の支援と同じ)

B：読み書き達成テスト／課題⑨ 部首・部品テスト

### 行動の特徴

- 漢字の書字において、部首を正しく書くことが苦手である。
- 漢字の書字において、間違った筆順で書く。

### アセスメント方法

「部首・部品テスト」では、代表的な部首について、部首名を答えることを求めます。また、部首の位置を答えることを求めます。正答数を得点とします。

⑤ 拾 ( ) ( )	④ 泳 ( ) ( )	③ 葉 ( ) ( )	② 話 ( ) ( )	① 休 ( ) ( )
⑩ 頭 ( ) ( )	⑨ 広 ( ) ( )	⑧ 熱 ( ) ( )	⑦ 教 ( ) ( )	⑥ 道 ( ) ( )

例  
校 (きへん)

部首・部品テスト

● 次の漢字の部首を、○でかこみましよう。また、( )の中に部首の名前を書きましよう。  
分からない問題には、?を書きましよう。

### 支援の考え方

#### 【支援が必要な理由】

部首に関する知識が不足している場合には、漢字が正しく書けないことが多くなります。

#### 【支援の工夫】

漢字の書字では、漢字が部品から構成されていることを理解し、部品に注意を向けることが大切です。部首の名前と位置の理解が困難な場合には、部品の知識を利用して書字することが困難になります。

部首の名前と位置について、プリントにより指導します。指導例は、通級による指導での指導方法 (P.45・46 漢字単語の書きの支援②③) を参考にしてください。

## Ⅱ 通級による指導で活用するアセスメントと支援

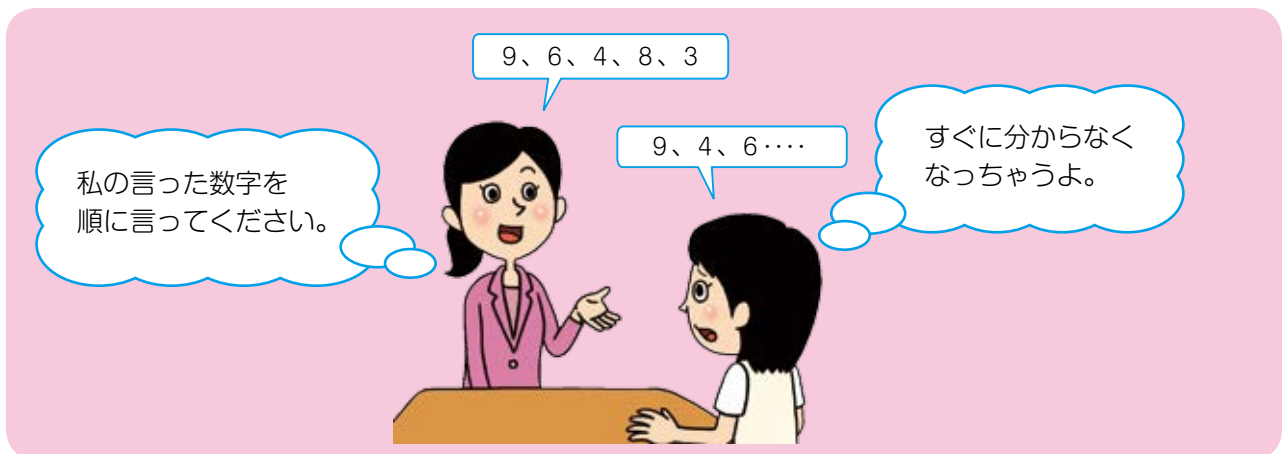
### B：読み書き達成テスト／課題⑩ 聴覚記憶テスト

#### 行動の特徴

- 忘れ物が多い。
- 理解していても、長い文で筋道立てて話すことが苦手である。
- 抽象性が高い漢字単語の読みや、学習課題など、機械的に記憶することが苦手である。

#### アセスメント方法

「聴覚記憶テスト」では、順唱課題と逆唱課題を用います。数詞が音声提示されるので、それを聞いて記憶します。その後、順唱課題では、聞いた順に復唱することを求めています。逆唱課題では、逆の順に復唱することを求めています。



#### 支援の考え方

##### 【支援が必要な理由】

一般に新しく聞いたことを記憶する際には、心の中で、数回反復することで記憶しようとしています。聴覚記憶の弱い生徒は、そのような学習が苦手です。従って、聴覚記憶の弱い生徒が示す学習の苦手さは、様々な学習に影響します。例えば、地名や生産地と特産品の関係、歴史上の人物の名前、年代、漢字単語の読み、英単語の読みやつづり、理科の学習単語の意味と読み、数学の公式などに困難が生じることがあります。

##### 【支援の工夫】

以下の方法が効果的です。

- ①生徒が持っている知識と関連させる方法⇒意味の把握にもつながります。
- ②イラストを用いることにより、学習内容について、具体的な視覚的イメージをもたせる方法。
- ③生徒自身の経験しているエピソードと関連させて、記憶させる方法。

\*③は特に、イラストで示しにくいときに効果的です。

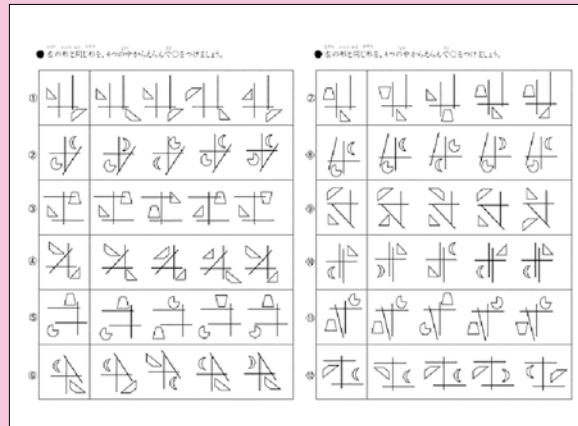
## B：読み書き達成テスト／課題⑪ 視覚スキルテスト

### 行動の特徴

- 漢字の書字において、書けずに空欄になることが多い。
- 漢字の書字において、正しい字を書いたか、自分で判断することが困難である。
- 漢字の書字で、字の一部が不足したり、余分があったりする。

### アセスメント方法

「視覚スキルテスト」では、正答数を得点とします。テスト用紙の左側にある形と同じ形のものを、4つの形の中から探す課題です。縦線、横線、斜め線の位置と関係させて、丸と四角の位置関係を判断します。このテストは、視空間の位置関係の把握を評価するものです。



### 支援の考え方

#### 【支援が必要な理由】

視覚スキルテストでは、縦線、横線、斜め線の位置と関係させて、丸や四角の位置関係を判断する力を評価します。部品の位置関係の把握が弱い場合には、漢字の正確な書字が難しくなります。書いた字について正しい字であるのか、正確に判断することが苦手になります。

#### 【支援の工夫】

漢字の書字では、漢字が部品から構成されていることを理解し、部品に注意を向けられることが重要です。部品の位置関係を把握することが弱いので、部品の把握が困難になります。その場合、以下の指導が効果的です。

- ① 言語的な手掛かりを利用して、部品の関係を把握できるようにする指導
- ② 視覚的イメージを手掛かりとして、部品の関係を把握できるようにする指導

指導例は、通級による指導での指導方法（P.46 漢字単語の書きの支援）参照してください。

## Ⅱ 通級による指導で活用するアセスメントと支援

### B：読み書き達成テスト／課題⑫ ローマ字の書きテスト（ローマ字の知識）

#### 行動の特徴

- 文字と音の対応が規則的な単語でも、読んだり書いたりすることが苦手である。
- 無回答が多い。アルファベットの誤りが多い。

#### アセスメント方法

【ローマ字の書きテスト】では、清音表記と特殊音節表記について、テストをします。3モーラ（拍）の単語を書くことが求められます。

#### ローマ字の書きテスト

（問題）

以下のひらがなをローマ字になおして、（ ）の中に書き入れましょう。  
（例）わみで（ wamide ）

① ざいな	（      ）
② のがり	（      ）
③ しゆたむ	（      ）
④ めおっけ	（      ）
⑤ るんき	（      ）
⑥ うこぶ	（      ）
⑦ とげひ	（      ）
⑧ すひゃて	（      ）
⑨ みっれく	（      ）
⑩ よまん	（      ）

#### 支援の考え方

##### 【支援が必要な理由】

アルファベットの文字と音の対応により英単語を書くことが困難になる場合があります。

##### 【支援の工夫】

アルファベットの文字と音の対応を促します。

①アルファベットカードを呈示し、文字の音を答える指導

②文字の音を口頭で呈示し、アルファベットカードを選ぶ指導

文字一音対応に基づいて、音を組み合わせる指導が効果的です。

①アルファベットカードを組み合わせ、文字と音の対応が規則的な英単語を構成する指導

⇒聞いた情報を覚えることが苦手な場合には、カタカナをヒントとして示すことが有効です。合わせて、英語の発音とつづりの対応を促す指導を行います。対応を促す付属のPCソフトを、P.37で紹介しています。



B：読み書き達成テスト／課題⑬ 英単語つづりテスト▶▶▶ P.16で解説(通常学級の支援と同じ)

B：読み書き達成テスト／課題⑭ 英語視覚性語彙テスト (単語の視覚イメージの形成)

### 行動の特徴

- 無回答や、ローマ字に依存したつづりが多い。また、つづりの半分以上が間違っていることがある。
- 英語の教科書の音読が遅い。

### アセスメント方法

「英語視覚性語彙テスト」では、1分間に見付けることのできた単語数を得点とします。

※視覚性語彙とは、視覚的に捉えて理解している単語の数のこと

一行の中にスタッシュ (ノ) を二つ入れると、三つの英単語が見つかります。  
できるだけ速く、一行に二つノをいれましょう。制限時間は1分間です。  
※先生の合図で始めてください※  
※先生が「やめ」と言ったら解くことをやめましょう※

(例) food/hat/ant

b e d c a t r o o m  
p a r k c a p b o y  
t e a l o v e b a g  
m o o n b a g c a r  
c a t p a r k t e a  
l o v e b a g b o y  
c a p p a r k c a r  
b a g r o o m b o y  
c a p t e a p a r k  
b a g b o y m o o n  
c a r n a m e b e d  
t e a b a g r o o m  
m o o n b o y c a t  
b a g h e r n a m e

次のページに進みましょう

### 支援の考え方

#### 【支援が必要な理由】

見た目から発音を推測しづらい単語について、誤りが多くなります。また、自分が書いたつづりの誤りに気づき修正するなど、アルファベットや英単語を見て学ぶ学習が苦手になります。

#### 【支援の工夫】

視覚的に捉えて記憶する指導が効果的です。

- ①文字を穴埋めすることで、英単語を完成する指導
- ②誤ったつづりを呈示し、正しく訂正する指導
- ③英語視覚性語彙テストのような単語を探す課題による指導

⇒基礎的な英単語の中にも、発音しづらい単語があります。学習する単語を決めて、課題を反復練習することで、単語の視覚的イメージを高めます。

## II 通級による指導で活用するアセスメントと支援

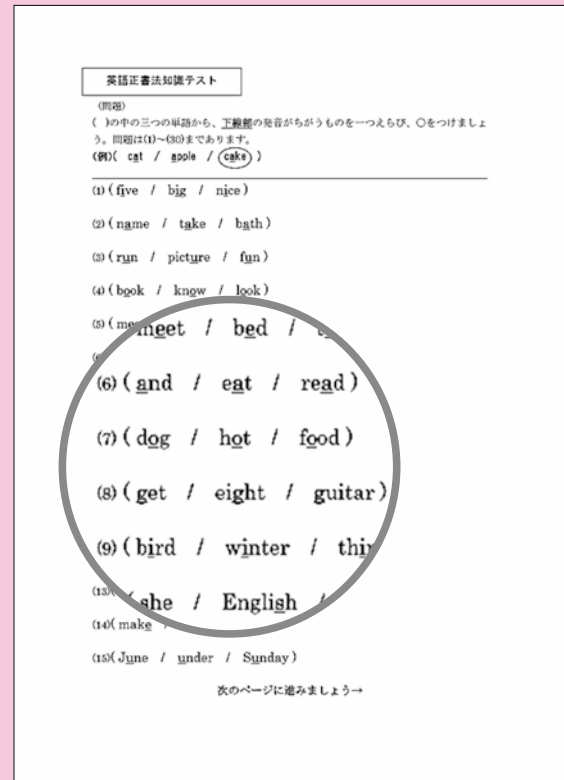
### B：読み書き達成テスト／課題⑮ 英語正書法知識テスト（英語独自のつづりのルールと知識）

#### 行動の特徴

- 文字と音の対応が規則的な単語はつづれるが、不規則な単語の読みやつづりが苦手である。
- 母音を挿入する(例:bedをbeddoと書く)など、ローマ字に依存したつづりが多い。

#### アセスメント方法

3つの単語の、それぞれ一文字に下線が引かれており、その文字の読みが、他の2つ単語とは異なる単語に丸を付けます。



#### 支援の考え方

##### 【支援が必要な理由】

tradition、action など、単語の韻が共通であることに気付くのが苦手である可能性があります。単語の韻の共通性に気付くことは、特に、文字数の長い単語の学習で必要になります。

##### 【支援の工夫】

つづりのルールを理解させる指導が効果的です。

- ① 文字の組み合わせと、それに対応する発音を一緒に示して教える指導
- ② 同じつづりのルールをもつ単語の共通性に気付かせる指導

\* 聞いた情報を覚えることや操作することが苦手な場合には、カタカナをヒントとして示すことも有効です。

【英語の発音とつづりの対応を学習する教材の紹介】

視覚性語彙や正しいつづり方に関する学習とともに、英単語の聞き取りも大切な学習課題です。本アセスメントの支援教材では、中学生の代表的な基礎英単語について、ネイティブスピーカーの発音を聞いて、英単語つづりを選んだり、英単語つづりを見て、ネイティブスピーカーの発音を選んだりする課題を用意しました。これは付属のCD-ROMに入っているPCソフト教材で利用できます。カナ表記をヒントにして学習した後は、カタカナを用いない英語の発音とつづりとの対応学習が必要です。

	課題の内容
①英単語つづりとネイティブスピーカーの発音マッチング学習	英単語つづりが提示されます。次いで、ネイティブスピーカーの発音（正）と発音（誤）のボタンが提示されます。学習者は音を聞いて、英単語つづりに対応する英語話者の発音のボタンを選択します。正しいボタンを押すと、正答音がします。
②ネイティブスピーカーの発音と英単語つづりのマッチング学習	ネイティブスピーカーの発音が提示されます。次いで、英単語のつづり（正）とつづり（誤）のボタンが提示されます。正しいボタンを押すと、正答音がします。
③ネイティブスピーカーの発音の選択学習	英単語つづりが提示されます。次いで、ネイティブスピーカーの発音と日本語話者の発音が提示されます。学習者は英単語つづりを見て、ネイティブスピーカーの発音に対応するボタンを選択します。正しいボタンを押すと、正答音がします。

C：支援の例／読解の支援①

指導例 ①

「話の要点を話す課題」による指導

- ①5文程度の短い文章を紙で提示する。
- ②指導者が1回読む。
- ③要点(伝えたかったこと)と関係がない文をマークする。
- ④いくつかの表現を上位のカテゴリーに相当する言葉で書き換える。  
⇒競技に出場し、また、係の仕事を行いました。
- ⑤いくつかの文を、違った文章で短く表現する。  
⇒充実した時間を過ごしました。
- ⑥書き換えた文を基にして要点を話す。  
★要点とは、「大切なこと」や「伝えたいこと」。  
★要点は、読み手により変化するので、指導では個々に判断する。

体育祭の思い出

昨日、体育祭がありました。

去年の体育祭は、雨でした。

わたしは、徒競走、リレー、綱引きに出場しました。

また、会場のアナウンスや、審判を担当しました。

あっという間に、体育祭は閉会の時間になりました。

[問題]

昨日の体育祭について「わたし」が伝えたかったことを要約しましょう。

【伝えたかったこと】  
昨日、わたしは体育祭で、競技に出場したり係の仕事を行ったりして、充実した時間を過ごすことができました。

！ 指導のポイント

- 要点をまとめる上で、効果的なルールがあります。
- ルール①：無関係な情報を外します。
  - ルール②：カテゴリーの言葉で置き換えます。
  - ルール③：いくつかの文を違う文章で短く表現します。
- これらのルールは、「マクロルール」と呼ばれています。

⇒「マクロルール」については、P.13のコラムを参照